

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100235		
法人名	社会福祉法人すずらん会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑		
所在地	和歌山市屋形町1丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成22年7月8日	評価結果市町村受理日	平成22年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3090100235&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成22年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所のご利用者様に対して、当事業所は利用者の人格を尊重して常に利用者の立場に立ち、その人がその人らしく生きられるようにサービスの提供に努めています。書道・コーラス・絵画などの芸術活動もできる限り行っています。又、利用者の健康管理面においては、協力病院と密に連絡を取り、診療時間外においても診療を受けられるように連携を取り、利用者の体調管理を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>中心市街地に位置し、訪問も外出もしやすい環境である。7階建ての法人施設の3階がグループホームで、建物内は常に掃除が行き届くように心配りされている。隣地の関連病院とも連携が取れており「安心・安全」を入居者・家族に提供している。法人施設のクラブ活動参加や催し、また当事業所内でのレクリエーションも頻繁に行なわれ、入居者の心の張りや生きる力を引き出すためのケアを実践している。開設3年目に入り職員の体制も落ち着き、入居者に寄り添い一人にしない関わりを持つことをモットーに、定期的な研修や外部研修を重ねながらケアの充実を図っている。法人施設内の最上階のホールを地域に開放し、事業所と地域との相互関係作りにも活用している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者が、その人らしい暮らしを続けられるよう、安全で安心して、その人がその人らしく生きられるようにの理念を、職員一同、心を一つにして、日々、実践している。	法人施設全体での運営方針を理念として共有して日々のケアに取り組んでいるが、事業所独自の理念は作られていない。毎朝始業前には、管理者が職員に意識づけを徹底している。	入居者が地域で暮らし続けるために、地域との関係を重視した事業所独自の理念を作ることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事にも地域の方に参加して頂いています。近所の商店街へ利用者さんと買い物に出かけ、地域の人と交流している。	昔からある商店との付き合いもあり、自治会に入っている。7階ホールでの催しのお知らせや参加無料券などを提供して参加を呼びかけ、近隣住民をこちらから迎えに行くなど積極的に働きかけ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の相談業務を行ったり、共に催物を楽しんだりしている。イベントの際には地域の方や、ご利用者のご家族、ご友人等の方々にも案内状を送ったり、お誘いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の代表の方、市職員、第7包括支援センター職員、利用者の家族、法人役員、ケアマネージャー等で構成され、サービス実施状況の報告や話し合いを行い、サービス向上に役立っている。	自治会長・地域包括の職員・施設長・ケアマネージャー・家族の参加で、2か月に1度開催しているが、報告や状況説明が多い傾向にある。	運営推進会議は、外部の人の意見を聞く貴重な機会なので、行政への働きかけも含め、事業所のサービス向上のための双方向の会議となる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所各担当者、高齢福祉課、介護保険課等に相談をして、指導を受け取り組んでいる。	高齢者福祉課、介護保険課には、開設当初から頻繁に出かけて顔なじみになり、協働関係を築く姿勢を示して、その都度相談・指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けての研修を行い、職員全員が身体拘束となる具体的な行為を正しく理解して、側に寄り添う介護を心がけて拘束のない援助に努力している。	身体拘束をしない強い意志で取り組んでいる。点滴の際に家族から腕を固定してほしいと言われたが、拘束の弊害を説明し看護師が付き添うことで対応した。防犯等を考慮してエレベーターは暗証番号でロックしているが、ホームの玄関には施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法等、施設内での研修や、毎日の朝礼等で、各フロアでの昨日の特記事項等、報告して各部署の方々と話し合い、事例を共有して防止に全力で取り組んでいます。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に利用者さんの自立支援に向けて取り組んでいます。又、成年後見制度についても、新人研修等で学び、必要性のある人には、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容や重要事項説明書の内容等は解りやすく書類を見ながら説明し、解らないことがあれば質問していただき、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰でも、意見を提案できるように意見箱を設けている。提案があれば、それらの意見について、直ぐに会議を開催して、運営に反映させている。	1階エレベーター横の意見箱の横に書きやすい様式の記入用紙を備えているので活用されやすく、お礼の言葉や事業所に対する意見も入っている。意見には迅速に対応し、できるところから改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週行うケアマネ会議や部署会議で職員の意見や提案を聞き、起案書、企画書をつくり、運営に反映させている。	職員は週1度のケアマネ会議やフロア会議、日常業務の中で、管理者・ケアマネージャーと一緒に話し合いながらケアにあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のフロア会議や管理者参加の毎週行われるケアマネ会議においての意見を反映させて、働きやすいように勤務状況を把握しています。研修会参加も活発にです。健康診断も行い職場環境等、整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での新人研修、現任研修を行い、外部研修等、全職員に回覧して参加を募り、出来る限り参加して貰っている。時々、アンケートを出しています。新人にはOJTを行い、共に働きながら仕事を覚えて貰っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他の小規模の見学等を行い、又、他の施設からの見学も受け入れています。環境整備、職員の意見等に関する情報を取り入れ、サービスの質の向上に努めています。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受付時、本人と家族さんと面接をして、直接、困っていること等をお聞きしている。アルバムや身近な親しめる道具等を持って来て頂き、会話を多くして信頼関係関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所、電話等の相談により、家族が困っていること、要望等をお聞きして、適切なサービスを家族と共に選び、利用開始している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時、必要としている支援を考え、当施設でのサービスに限らず、他事業所のサービスやインフォーマルサービスも考慮に入れ支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族に一員となれるように趣味の事を共にしたり、簡単な家事を共にして過ごし、又、利用者さんには自分でできることはして頂き、共に暮らしている、という関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員で対応困難な時は、家族さんの協力を求め一緒に対応して頂き、クラブ活動など、家族様にも参加して頂き楽しみながら、共に支えていけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や知人の方々が気軽に面会に来て頂けるように努めている。又、長期滞在の方には、時々、ご自宅まで外出して、室の空気を入れ替える等して、ご近所の方々にも安心して頂いています。	入居者を送り迎えして、自宅で家族と1日過ごせるようにしたり、入居者の希望で親族の家を訪問するなど、これまでの関係を断ち切らない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあい、支え合えるような支援に努めている。又、洋室や和室など、その時々で使い分けて、利用者様同士の団らんにも努めています。職員も常に寄り添い支援しています。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了された方にも、色々な行事やイベントの際には招待等をして関係が切れないように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、個々の思いや意向の把握に努め、利用者本位に努めている。	職員が日々のかかわりの中から各人の思いをくみ取り記入するシートを作り、希望に沿った暮らしを支援し、介護計画作成の資料にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さん一人ひとりに趣味、嗜好、得意な事等、聞きとり、家族さんや友人等からも教えて頂き、花壇の好きな方には花作りを取り組んで頂き、畳の好きな方には畳を敷いたりと日々、取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時や入浴前のバイタル測定、食事摂取量、排尿チェック等、現状の把握に努め、定期受診して健康管理をしていると共に、1日の過ごし方を具体的に把握して常に状態を記録しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが出来るように利用者と家族を交えて話し合い情報を収集しています。日々の生活の中で職員が気づいた事を全職員で共有し、看護師の意見も反映させ、介護計画を作成しています。	介護計画作成は3か月に1回、モニタリングは1か月に1回行っている。職員は日ごろのかかわりから入居者の思いを、家族には面会時に意向を聞き計画に反映させているが、やや画一的である。	入居者がその人らしく暮らすために、さらに本人の思いを深く探り、個性の感じられる具体的な介護計画が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状態を記入し、職員間では申し送り帳でのチェック、意見交換を行い情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人生の先輩でもある利用者さんから学ぶことも多く、又、利用者さんには自分ではできないことはして頂き、共に暮らしているという関係を築いています。職員で 対応困難な時は、家族さんにも協力して頂いています。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々との繋がりがあ る。行事等には、地域の人々に参加して頂 き、協力して頂いている。マジックショー、舞 踊、謡い、演劇、コーラス、体操教室等を多 目的ホールで協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者さんの希望を優先して、かかりつけ 医の診察や適切な医療が受けられるように 他医療機関の紹介や協力病院受診等、支 援しています。	入居者や家族の希望するかかりつけ医と なっている。基本的には家族との通院である が、緊急時は協力病院での受診を支援して いる。往診に訪れた入居者のかかりつけ医 が職員の相談にのってくれる事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	日常の健康管理や薬の事等相談し、指導し て頂いています。又、入浴時の身体の異変 等、診て頂き、適切な看護や診察が受けら れるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入退院時のカンファレンスを行い、病院関係 者と連携を密にとっている、入退院のマニ ュアルも協力病院と話し合って作成している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	重度化し、終末期に関しては、かかりつけの 医師・看護師・家族をまじえて事前に話し合 いの機会を持ち、随時、状態に合わせた支 援をしている。	入居者の重度化や終末期の経験はなく、事 業所での具体的な指針は決めていないが、 重度化や終末期には法人内の施設や協力 病院との連携で、状態に合わせた支援がで きる体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	外部研修参加や施設内研修実施して、疾病 の理解を深め、マニュアルに沿って緊急時 の対応を学び、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難経路の確認 や消火器の位置は全職員が把握している。	消防署の協力を得て、法人内で年2回の避難 訓練を、職員・入居者参加で行っている。訓 練時のサイレンの予告のため地域に挨拶を している。	

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけない言葉かけ、プライバシーを損ねない対応をしています。個人記録は事務所内の書庫に管理しています。	共同生活における様々な場面では、入居者同士の尊厳を大切にした対応や言葉かけをしているが、ダンボールに太字マジックで「職員用入るな！」との入居者の尊厳を守るとは言い難い表示も見られる。	職員トイレの表示は、他の場面での尊厳の欠如にも繋がるのではないかと危惧される。今一度、ケアの原点に立ち返り、更なる向上を目指してほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなおやつ等を聞き、職員と共に買い物に出かけ、一緒に調理して楽しんでいる。地域での買い物等企画して、自由に参加して頂き好みの服なども購入しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の挨拶時等に、その方の体調を見ながら、希望を聞き、その方の希望に沿って一日を過ごして頂くようにしている等、自分のペースで日々過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪が月に一度、ボランティアで理容店の方が来て下さいます。本人の申し込みでおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、下膳を職員と一緒にしています。食事は好きな食べ物などを聞き、誕生日会やおやつなどで一緒に準備して、食事会を楽しんでいます。	時には味噌汁を作ることもあるが、日常は階下の厨房で作った食事を盛り付け、配膳している。職員と一緒にテーブルを囲んで、お弁当や、希望により入居者と同じ食事をとっている。準備や片づけを行う利用者は少ない。	食事を楽しむという意味でも、力の発揮の場と捉える意味でも、入居者に働きかけ「食」を通じた入居者の意欲を引き出す場面作りの工夫が望ましい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の食事摂取、水分量などチェック表に記入し、一日の水分量を把握し脱水状態にならない様に行っている。管理栄養士により必要なカロリーを把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の方は、毎晩洗浄剤に浸けている。歯磨きを自分で出来る方には毎食後、見守りしている。出来ない方には、職員が口腔ケアを行っています。又、週2回歯科衛生士に来て頂き、口腔ケアを行っている。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時チェック表を記入し、排泄パターンを把握して、全員、トイレ誘導を行い、利用者さんの失禁等を軽減し、気持ちよく生活出来る様に支援している。	トイレは2室に1つの割合で、居室と居室の間に設置している。排泄チェック表を活用し、各入居者に声かけをして排泄の失敗やおむつの使用を減らした。また便秘予防には、食事メニューに気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事等を注意したり、排泄チェック表や腹部状態を把握し、運動不足に気を付けている。毎日のラジオ体操やホール内を散歩して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の入浴時間を聞き、対応しています。又、みかん湯、バラ湯、薬湯等で楽しんでいます。	基本的には週2回であるが、希望しない入居者は無理強いせず次の機会にしたり、手だけ足だけでも入るように勧めている。夜間の希望には、足浴をしてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動を促し、一人ひとり安心して休息出来る様に対応して生活リズムを整えるよう努めている。部屋の温度や明るさも適切に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を提示し、服薬してもらう時は、職員が用法などを確認し、医師の指示通り、服薬出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の時には一人一人役割を決めて寸劇に参加して頂き楽しんだり、毎週のクラブ活動にも参加して頂き、気分転換を図り、生活の活性化につながる様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーに買い物に出かけたり、お屋には回転寿司に出かけて、皆で外食を楽しんだり、又、ドライブ等、企画して四季折々の季節感を楽しみ、気分転換等行っています。	ガーデニングの水やりや、テラスに出ておやつを食べたり、送迎の車で一緒にドライブをしたり、希望者は数人で近くの商店やスーパーに買い物に行くこともある。法人施設合同で計画し遠方へも出かけている。	職員からの働きかけだけでなく、入居者が出かけることを当たり前と感じられるような、個別の支援や体制が求められる。

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は家族の了承のもとで持っていて頂いている。家族様了解のもと、ショッピングツアー等を行っています。出来ない方は、家族様と外出を楽しみ、欲しいものを買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の出来る方には、自分で電話をかけられるように支援しています。出来ない方には、手紙や絵手紙を本人に書いて頂き、あて名書きや、ポスト投かん等、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、観葉植物や四季の花など飾り、玄関には、利用者さんの手芸作品など飾り、家庭的にしている。 又、和室には、炉をきり、お茶会も開催している。	玄関前ホールもゆったりとしたくつろぎのスペースとなっている。オープンキッチンでは調理・配膳などが見えて生活感が感じられる。広い座敷は、ふだんはあまり活用されていない。入居者の職員トイレ入室を禁止するための不適切な表示がみられた。	見当識への配慮を考えた対処の仕方が望まれる。グループホームは自宅の延長という観点から、入居者が我が家と感じられるさらに居心地のよい場所になることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはマッサージチェアー、ソファーなど設置して、友人や、家族と共に過ごして頂いています。昔話など楽しくされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた馴染みの家具や生活用品を持って来て頂き、入居者がくつろぎ過ごせる居室になっている。鉢植えを室内で育てる方もおられます。	ベッドは備え付けであるが、タンスや生活用品は思い思いの使い慣れたものを持ち込み、各入居者の個性が感じられる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ使用時、センサーで電気が付く様に設備している。廊下など夜間、明るすぎない様に所々、明るいライトを付けている。		